

第6回 観音寺市民会館開館準備実行委員会【要約】		日時	平成27年6月22日(水)19:00~21:00
		場所	観音寺市役所 2階 201会議室
出席者	委員14名(欠席1名)、事務局4名、事務局補2名		
議題	(1)第5回議事録(要約)について (2)開館記念式典・こけら落としについて (3)プレ事業について (4)その他		
<p>1. <u>開会</u> 開会のあいさつ。 委員交代に伴う委嘱状の交付</p> <p>2. <u>委員長あいさつ</u> 委員長のあいさつ。</p> <p>3. <u>議題</u> <u>(1)第5回議事録(要約)について</u> 資料を元に議事録(要約)について説明。確認の後、内容を承認。 承認された議事録を市のホームページで公開する。</p> <p><u>(2)開館記念式典・こけら落としについて</u> 資料を元に開館記念式典及びこけら落としについて説明。</p> <p>【委員質問】 ・開館記念式典・こけら落としを周知する手法として、どのようなことを考えているか。多くの方が訪れるよう、ケーブルテレビを活用するなど、お金をかけても広報に力を入れていただきたい。</p> <p>【事務局回答】 ・詳細が確定次第、市のホームページや広報を中心に、早めに広報を行う予定である。 ・式典は全館を利用することになる。大ホールの定員は1200名である。ある程度的人数制限が必要なため、一般市民の参加者は事前に公募し、その方々以外はロビーまでの入場制限を行うことも考えている。</p> <p>【委員意見】 ・以前も委員からのご意見があったように、指導者の方を招いて、吹奏楽団を指導していただくという形は考えていないか。例えば、観音寺市と繋がりの深い先生を指導者として呼んでいただけたらと思うがいかがか。せっかく良いホールができるので、次の世代の子どもたちを育てていける場として機能していけるのが望ましいと思う。</p> <p>【委員意見】 ・出演者は全てアマチュアなので、お金はいただきずに無料公演とした方が良さだろう。どういう形で指導者の方を招くかは、予算の問題もあるが、実現できれば良いと思う。</p> <p>【事務局回答】 ・個人的な考えではあるが、現在市内で吹奏楽の指導を行っておられる先生がいらっしゃるのので、例えばそういった方をお願いしたほうが、より市民一丸という印象が出るのではないかと考えている。</p> <p>【委員意見】 ・指導者の件は、予算があるならば指導者が入り開館記念と同時に育成を行うことで、将来の事業や活動にも繋がると良いと考えお話しした。今後具体的に計画を進めていく過程で決定していきたい。</p> <p>【事務局回答】 ・本日の案はあくまでたたき台として提示しているので、今後そのような方向性で進めることも検討できればと思う。</p>			

【委員意見】

- ・例えば、自衛隊や警察などのオーケストラと連携することも考えられるのではないかと。

【委員意見】

- ・管理運営計画との整合性とも関係するが、外部から指導者を呼ぶのは、提案としては良いと思う。事業計画の中で一番力を入れているのが育成普及事業である。こけら落としに指導者を呼び、今後育成に力を入れていくという姿勢をアピールするためには、外部指導者を呼ぶのもひとつの方法ではないかと思う。

【委員意見】

- ・こけら落とし公演は、市民による吹奏楽と合唱が中心との提案があったが、それについてはいかがか。

【委員意見】

- ・参加は公募とのことだが、沢山応募があった場合に、どのように選別するのか。

【事務局回答】

- ・基本的にはまずは楽団をまとめていただける方を決め、ある程度その方にまかせる形になると思う。具体的な選別方法等については、まだ検討を行っていない。ご提案があればお願いする。

【委員意見】

- ・合唱で第九の公演を行ったことがあるが、吹奏楽よりも合唱のほうが練習回数が多い。練習は、小グループに分けなければならないので、ある程度の上限もある。また、参加者は、練習に参加できなければならないので、ある程度は選別出来るだろう。
- ・こけら落とし公演に小学生から大人までが参加できるのは良いことである。これを契機とし、次に繋がれば良いのではないかと。

【委員意見】

- ・既存の事業をプレ事業とするか、新しい事業を立ち上げるのかの2つの選択がある。その際、どの事業をプレ事業とするか審査が必要になると考える。

【委員意見】

- ・合唱団にはひとりでも参加が可能だと思うが、吹奏楽団の場合は、学校の部活動から公募という形になるのか。

【事務局回答】

- ・まだ詳細は決まっていないが、方針が決まり次第報告させていただきたい。

【委員意見】

- ・幅広い年齢層の方に参加していただきたいという意向を持っていると理解して良いか。

【事務局回答】

- ・そうなることが理想だが、難しい部分もあるのではないかと考えている。

【委員意見】

- ・どういう曲を演奏するかにもよるだろう。吹奏楽と合唱の、どちらに重点を置くかで変わってくる。コラボレーションした時に聴き応えのある曲とするならば、伴奏的になる吹奏楽団はある程度固まっていないと上手く行かない部分もある。
- ・応募が多かった場合には、出来るだけ多くの方に参加していただくことを優先し、公演の途中でメンバーを入れ替えるのか、など今後の検討が必要である。

【事務局回答】

- ・多くの方に参加していただきたいので、メンバーを入れ替えるということも、選択肢のひとつとしてあるだろう。

【委員意見】

- ・開館までにもう2年を切っている。今年度の秋くらいからは指導者を決め、来年度の早々には取り掛かれるようなイメージになると思う。

【委員意見】

- ・舞台には最大何人が立つことができるのか。

【事務局回答】

- ・吹奏楽であれば最大 80 名程度。合唱団の関係もあるので、実際に編成をどうするかは今後具体的にしていく。基本的には吹奏楽を舞台後ろに配置し、ひな壇がない状態や脇花道等を活用して合唱を行うことをイメージしている。こけら落としの公演時間が限られているので、可能な限り時間短縮が可能な方法を考えていく。

【委員意見】

- ・吹奏楽と合唱のコラボレーションについては、反対意見は無いように思う。今後の具体化については事務局でも検討いただきたい。
- ・こけら落としの公演時間は 1 時間程度とあるが、それについてはどうか。

【事務局回答】

- ・現段階では 1 時間程度を想定しているが、12 時半を終わりの時間にすることで、1 時間半程度の公演時間とすることも可能と考えている。詳細なスケジュールは、メンバーや曲目、プログラムを決めながら詰めていきたい。
- ・歌や吹奏楽のとりまとめをお願いできる方について推薦等があれば、事務局まで教えて頂きたい。
- ・出来る限り、社会人までの幅広い年代の方に参加していただきたいが、例えば学生だけでも問題はないと考える。

【委員意見】

- ・西讃地域全体でひとつの吹奏楽団をしている。その指導者の方と中学校で観音寺中学校か中部中学校の先生に入っただき、高校の先生とで 3 人程度にするのが良いかと思う。
- ・開館の時期を考えると、今の中学 1 年生と高校 1 年生がコアとなる形でいくしかない。それにプラスして一般公募の方をどう入れるか、という考え方で良いと思う。例えば、全体は最後の 2 曲として、5 割は部活で行う、などだと今の 1 年生も中心になれると思う。

【委員意見】

- ・歌は、退職された先生がマリンウェーブで指導をなさっていた。

【委員意見】

- ・学校関係でも、小学校、中学校の先生もいらっしゃる。

【委員意見】

- ・観一の先生もいらっしゃる。

【事務局回答】

- ・何名か推薦していただいたので、委員の方々にも協力をお願いしながら話を進めていく。

【委員意見】

- ・実際に、外部からの指導者をお願いすることは、予算的に可能なのか。

【事務局回答】

- ・予算も検討しながら平行して検討していくが不可能ではないと考えている。育成という話もいただいたので、色々な形で繋げていける形を探る方向で検討を行っていきたい。
- ・具体的に予算等が決まれば、今は曖昧な部分が明確になる可能性もある。

【委員意見】

- ・予算など様々な事情はあるが、今後の交流に繋がるような方向性が出せればと思う。
- ・外部からの指導者については、費用等がわかれば可能かどうかの判断もできるだろう。そこも含めて検討していただきたい。

【委員意見】

- ・以前に小出郷文化会館の話をしていただいたが、その施設は、報酬ではなく、施設の意義を全面に打ち出し、熱意のある指導者を探した。

【委員意見】

- ・参考までに、三野町では、人形浄瑠璃指導の先生に熱心に指導お願いし、指導料を減額していただいたことがあるらしい。

【委員意見】

- ・隣町の館長が太夫をやっているが、市民会館の話をしたら良い機会があれば協力したいとのことだった。

【委員意見】

- ・大御所の先生もいらっしゃる。

【委員意見】

- ・こけら落としとしては、吹奏楽と合唱のコラボレーションを行うということで、委員会の総意として良いか。

【委員意見（全員）】

- ・異議なし

【委員意見】

- ・指導者は、お話しして協力していただくということ。また、演目をどうするかも指導者にお任せさせていただくということが主なご意見であった。
- ・将来につながる育成プログラムについては、費用、指導者なども含めお考えいただき、改めて検討することにさせていただきたい。
- ・記念式典についても市で検討することと思うが、本委員会でも内容を了承することとする。

(3) プレ事業について

資料を元にプレ事業について説明。

【委員意見】

- ・「新しい施設（舞台）を体験しよう（仮称）」については、利用するのに料金がかかるのか。

【事務局回答】

- ・無料で利用できることを想定している。ただし、職員の習熟訓練を兼ねているので、お断りした上で利用していただくことになる。

【委員意見】

- ・正式オープンの前だが、有料のコンサートなどを行うことも可能とするのか。

【事務局回答】

- ・開館はしていない時期なので、有料公演を行うことは難しい。ただし、関係者が観にくる程度であれば構わないのではないかと考えている。

【委員意見】

- ・以前に、商店街へフラッグ等を出し広報するという話がされていたが、それはどうなっているか。
- ・Tシャツは、他にシールなどという案も出ていなかったか。また、一般販売などは考えているか。

【事務局回答】

- ・商店街へのフラッグ、乗り合いバスのポスター、チラシ等は既に決定しているので、本日のリストからは外させていただいた。これらの事業は、今年度、来年度ともに実施する。
- ・今回は仮にTシャツとし、ここにも書かれているようにステッカーなど、他にも使えるものがあれば波及させていきたい。販売の可能性もあるが、現段階では考えていない。また、内部ではあるが、Tシャツを着ている人を市民会館の応援団として、割引制度を設けるとい、サポーター制度のような意見も出ている。

【委員意見】

- ・Tシャツについては、皆が欲しがるとデザインにすることが重要である。

【委員意見】

- ・関心を高める手段として、ホールの愛称やシンボルマークの募集ということについては考えているか。

【事務局回答】

- ・愛称については委員会でも意見をいただき検討をしているが、先にネーミングライツを検討させていただき、見つければそちらを優先したい。ネーミングライツが不可能な場合、そこから愛称を募集しても間に合うのではないかと考えている。

【委員意見】

- ・プレ事業と銘打って他の館で公演を行う場合、使用料を減免するということはあるのか。

【事務局回答】

- ・館によってルールも違うので、現段階では考えていない。例えば有料の補助を行うのであれば、その補助金で使用料を払っていただくという考え方である。

【委員意見】

- ・プレ事業の体験利用では、どの程度までを許可するのか。例えば、施設の外にポスターを出したりすることは可能なのか。

【事務局回答】

- ・あくまで練習利用が基本になるので、そこまでは想定していない。ただし、観客が入った際のシミュレーションも習熟訓練では必要となるので、有料での客入れはなしだが関係者が見ている程度であれば、とのイメージでいる。開館はしていないので、広く広報をすることはできない。
- ・市民音楽祭と成人式については、習熟訓練も兼ねて、市の主催行事として行う。

【委員意見】

- ・こけら落とし前に市民会館を公開してしまうと、こけら落としのワクワク感がなくなるのではないかと。実質市民音楽祭が初舞台となってしまふ。市民音楽祭の練習であれば利用するのは良いと思う。

【委員意見】

- ・成人式は式典なので、市民が舞台上がるということはないと思うが、こけら落としの前に市民音楽祭という本格的な催しを行ってしまうのはどうなのか。

【事務局回答】

- ・運営側からすると、施設全面を使ったイベントは練習にはなる。また、市の行事のため、多少の段取りの違いはフォローが効く。ただし、ご指摘のように新鮮味がなくなる、という点はあると思う。

【委員意見】

- ・例えば、市民音楽祭を多目的ホールで行うことは難しいのか。

【事務局回答】

- ・不可能ではないと思うが、現状としては多目的ホールの音響・照明などは、あくまで講演会などの使用がメインで、芸能の発表などはホールよりも設備が行き届いていない。

【委員意見】

- ・こけら落とし前の市民音楽祭については、一考されたい。基本的に、開館前にチラシを配布したりする有料の催しは行わず、あくまで習熟していくための練習利用にとどめた方がいいのではないかと。

【事務局補佐】

- ・習熟訓練中は、あくまで職員が慣れるための練習期間であり、アクシデントが起こるかもしれない状態で利用することとなる。市民音楽祭を含め、安全性を担保するための練習期間に一般の不特定多数を施設に入れることについては、もう一度検討を行う。

【委員意見】

- ・練習利用は積極的に推進するという方向がよいのではないかと。

【委員意見】

- ・年度が変わる前に市民音楽祭で利用できるならば、参加対象となる学年が広がり、多くの生徒が参加可能なのではないかと。

- ・コアとなる学年はいるが、その下の学年の生徒も参加することになる。生徒達は、多く見積もって100～120名程度。コアとなる2年生は50～60名程度だろう。可能であれば、市内の中学生、高校生で参加を希望する生徒は全員出したい。

【委員意見】

- ・市民音楽祭については、事務局でもう一度検討していただきたい。

【委員意見】

- ・助成する団体を公募することについても、ご意見があればお願いしたい。

【委員意見】

- ・プレ事業だけでなく、記念事業にも引き継いでいかねばならない。例えば国民文化祭のように、1年テーマを決めて公募をかけるという方法もあるのではないかな。
- ・例えば「音と文化の創造」などというテーマにすれば、文芸や生活文化にも幅が広がる。市民ホールにはホールだけでなく展示スペースもあるので、そこを活用する機会にもなる。年間で四季をテーマに公募することもできる。
- ・文化協会にも、舞台芸術だけでなく、文芸や生活文化の団体がある。そこはプレ事業には含まれないのか。

【委員意見】

- ・プレ事業は、文化芸能の各団体のジャンルをしばらずに、全て網羅する形で公募するという方向でよいか。

【事務局回答】

- ・事業は、市民会館の施設を活用して行える活動であることが前提と考えている。

【委員意見】

- ・幅広く募集するというのは、ごもっともなご意見である。プレ事業は、新たな市民会館に関心を持ってもらうこと、活動する人を増やすことが大きな目的である。市内各地域に様々な活動を行っている方々がいらっしゃる。その方々に市民会館に関心を持っていただくのは重要である。利用者ならずとも、鑑賞者となる可能性もある。プレ事業は大事な広報活動になるので、できるだけ大勢の方に観ていただいたほうが良いというご意見だがいかがか。
- ・補助の対象かどうかは別途検討するとして、プレ事業として冠をつけていただければ良いのではないかな。できるだけ広く募集するということは必要である。

【委員意見】

- ・新しい市民会館ができるという機運を高める、醸成させることがプレ事業のおおきな意味である。そのために開館前から事業を行うのだと理解している。

【事務局回答】

- ・基本的には、「市内で活動している文化芸術団体」というくくりなので、必ずしも市民会館を利用しなければならないわけではない。

【委員意見】

- ・あまり枠を狭めない方がよいのではないかな。文化芸術団体ありきで、やりたいと思う方が参加できるのが良いのではないかな。

【委員意見】

- ・現在、市民会館建設予定地には看板が立てられているが遠方の市民は見ない。誰を対象に情報発信を行うのかを考える必要がある。

【事務局回答】

- ・広報は看板だけではなく、バスや広報、HPなど色々を含めて広く広報活動を行う。

【委員意見】

- ・広報やHPなどは見ていないひとも多い。インターネットは伝わる年齢に限られる。知らない人がいないよう、広く考えていかねばならない。

【委員意見】

- ・例えば、ある程度具体的になれば、本委員会に取材に来てもらうなどの方法も考えられる。

【委員意見】

- ・新聞等に記事として取り上げてもらうことは必要である。
- ・団体の選定についてはどの様に行うのか。

【事務局回答】

- ・現在検討中だが、例えば「1事業数万円で、5団体まで」などの制限は必要と考えている。事務局にて案を作成させていただく。
- ・場合によっては、最初はお金のかからない募集にし、予算が確定した段階で第2回を募集するという事も考えられる。

(4)その他について

【事務局補佐】

- ・文化活動を行える可能性のある市内の施設をマッピングし、配布させていただいた。抜けている場所等あれば、ご指摘をいただきたい。

【委員意見】

- ・雅之郷も入れていいのではないか、能舞台がある。ご覧になり、事務局へご意見を願います。

【事務局意見】

- ・次回は、7月27日(月)19時から観音寺市役所201会議室にて開催を予定している。

4. 閉会

閉会のあいさつ。

以上